



茶の里



発行日：令和6年6月11日
 発行者：さはら小学校長 相田 清美
 さはら小学校だより 第4号
 TEL 0295-78-0009

【充実の5月 Part2】

5月は様々な交流が充実しました。日頃の学校生活だけでは学習・体験できないことを、小
 小交流・地域との交流を通して学んでいきます。

3・4年生遠足

5/24（金）は、依上小学校との合同遠足で、栃木県の「モビリティリゾート茂木」（元ツインリンク茂木）に行きました。さはら小7名、依上小15名が一緒にバスに乗り、現地では班ごとに遊んだり見学したりお弁当を食べたりしながら交流しました。帰校後には「依上小の子と友達になりました」等の感想も聞かれました。山の子達が山を開拓した場所に行って新たな発見をしてきたようです。



1・2年生遠足

6/7（金）は、さはら小7名、依上小9名で合同遠足を実施しました。上小市立の「シビックセンター」までバスで移動し、約2時間という長旅にも関わらず、みなさん元気に館内の施設を満喫してくださいました。帰校後には、「久しぶりに保育園の時の友達と会いました」「ロボットに絵を描いてもらったのがうれしかった」等々、一人一人感想を聞かされました。



5・6年生宿泊学習

5/30（木）～31（金）さはら小4名、依上小21名で日立市「会瀬青少年の家」で合同宿泊学習を実施しました。大子駅に集合し水郡線・常磐線を乗り継ぎ、山の子達が海に向かいました。1日目は宿泊施設目の前の海岸を散策したりレクをしたり、夕食の力作りをしたりと、子供たちはあっという間に学校間の距離を縮めて楽しく交流してまいりました。2日目は、あいの雨にかかわらず近くの会瀬漁港で、水揚げされた魚の仕分け作業を体験しました。直接漁師さんから話を聞ける体験はとて貴重です。漁港で魚を手に取りながら、漁港から戻り施設の中で漁師さん達が撮った映像を見ながら、魚の種類や「定置網」の仕組み、漁師になる理由等、楽しく内容の濃い時間を過ごしました。しっかりと考えた希望をもって「漁師」という仕事をしている若者がとて輝いていました。山や畑に囲まれて生活している子供たちにとって、海の仕事は新たな視点となり、キャリア教育につながったと思います。



苗の学習初体験

毎年田植えや稲刈り・脱穀の体験は子供たちにとって、今年初の体験です。白井さんと連携し、種まき体験をさせていただきました。箱ずつつまみ、その上を平らにする上には、作業がはかまらぬよう、箱にシールを貼り、白井さんが自宅の「育苗器」で種から苗へと育ててくれました。

6/6（水）種から芽が長く伸び苗の様子を観察。育苗はとてデリケートで、病気になることもありますが、土の下・箱の下までびっしりと張っていること、この苗は東海南中学校2年生の田植え体験に使われること、収穫した米は、大子産の日本酒作りに使われること等を教えていただきました。

6/7（木）白井さんの水田で東海南中学校の2年生10名が田植え体験。体験の前に、5・6年生から「夢道場」の活動について、全校児童で種を蒔いたことを説明し、中学生に苗を託しました。



